

# 平成24年度 駒の学び舎 学び舎教育計画と合同研究について

・世田谷9年教育推進の基本的な方針  
・世田谷区教育要領

**駒の学び舎教育目標**  
駒沢の地で 心豊かな よく学ぶ たくましい 子どもを育成する

・児童・生徒の実態  
・保護者、地域の  
願い

## 学び舎の重点目標

- (1)美しいものに感動し、優しくひとを思いやる豊かな心をもち、自主的・自律的な生活の中で、ひととの良好な関係を構築して自己実現を図ろうとする意欲と能力を備えた子どもを育てる。
- (2)旺盛な知的好奇心に基づく高い学習意欲により主体的に学習に取り組む態度、確かな基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を、基盤となる豊かなことばの力とともに、発達の段階にしたがって継続的に身につけさせる。
- (3)発達の段階に応じ9年間を通じて、自らの健康の維持・増進、困難に対応できる強たくましい精神の育成、運動に親しむ態度と運動能力の増進を図る。

## 教育目標・重点目標を達成するための基本方針

- (1)豊かな心の育成
  - ①心を揺さぶる感動的な学校行事や体験的な活動を計画的に推進する。
  - ②自律心と、社会生活に必要なマナーを発達段階にあわせて身につけさせる。
  - ③体験的な学習活動を通じ、社会の一員としての自覚を育む。
- (2)確かな学力の育成
  - ①9年間を通じ、主体的に学ぶ態度と学習習慣を身につけさせる。
  - ②学習習得確認調査の分析等に基づく授業改善を小中連携して推進する。
  - ③言語活動を重視して、表現力や伝えようとする態度を育成する。
- (3)たくましい心と身体の育成
  - ①望ましい生活習慣を定着させ、身体の健康を増進する態度を育成する。
  - ②道徳教育と教育相談等を充実させ、心の健康増進を図る。
  - ③発達段階に応じて、組織的に継続して運動の機会を設定し、体力増強を図る。

## 『世田谷9年教育』で育てたい力・資質の実現のための方針

<p>(1)豊かな人間性 ・読書活動や鑑賞教室、縦割り班等を活用した様々な学校行事を通して、子どもの心を揺さぶる体験を多く取り入れ、豊かな感性を育む。 ・気持ちのよいあいさつ、公共のマナー、善悪の判断、自己肯定感を醸成し、相手を思いやる豊かな心や人との良好な関係を構築できる子どもを育てる。 ・ボランティア活動、2分の1成人式、14歳の成人式等を通して、社会の一員としての自覚を育てる。</p>	<p>(2)豊かな知力 ・計算タイム等の朝学習、家庭学習、補習、漢字検定、英語検定等を活用して、子どもが自ら主体的に学ぼうとする意欲や態度を育成する。 ・世田谷区教育要領に基づき、小中連携して、学習習得確認調査の分析結果やICTの活用を積極的に推進するなど、授業の改善・工夫を図るとともに繰り返し学習や体験的な活動を取り入れる等、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・スピーチ活動や課題解決学習等を活用しながら、論理的な思考力、的確な判断力、豊かな表現力を育み、9年間かけて自己実現を図ることができ確かな学力を身に付けさせる。</p>	<p>(3)健やかな身体 ・「早寝早起き朝ご飯」の励行やよりよい生活環境の整備、食育等の指導を通して健康な生活習慣の定着を家庭・地域と連携しながら推進する。 ・教育相談やスクールカウンセラー等の活用、道徳の時間を含む全教育活動でたくましい心を育て、自ら心の健康を増進しようとする態度を育む。 ・体力測定を活用し、体育的行事、縄跳びやマラソン、クラブや部活動、地域でのスポーツ活動を通して、基礎体力の増進と運動能力の向上を図り、生涯を通じてスポーツを楽しむ習慣や態度を育成する。</p>	<p>(4)ことばの力 ・世田谷区教育要領における「ことばの力を高める言語活動例」を活用しつつ、各教科等の目標の達成を図っていくとともに、合同研修会「駒の学び舎連絡会」で各校の授業参観と研究協議等を行い、小中が連携した研修の実施によって、義務教育9年間を通して「ことばの力」の育成を図る。 ・教科「日本語」の公開授業を学び舎内で相互参観するなど、授業の工夫・改善を図る。美しい日本語週間の実施など「美しい日本語を世田谷から」の取り組みを学び舎内の連携を通して計画的に推進し、9年間かけて、深く考え、自分のことばで表現できるコミュニケーション能力の高い子どもを育てる。</p>
---	---	--	---

合同研究主題：「ICTを活用した授業の改善」  
仮説：ICTを効果的に活用した授業を推進すれば、児童・生徒の「豊かな知力」や学習意欲が高まるだろう

<p>駒沢小学校 「やってみよう！わかった！楽しく学ぶ児童の育成」～進んで考え、自信をもって表現をすることができる授業～ ○学習したことを生かせるようにするために ○楽しく学び、進んで考え、自信をもって表現をすることができる授業をするために ○学習したことを振りかえって自信にするために</p>	<p>弦巻小学校 「情報機器を効果的に活用した授業づくり」 ○児童の思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力等を高める。 ○児童の実態と教科の特性に応じて情報機器を効果的に活用する。 ○「指導案・教材データベース」や「指導案・教材メニュー」を活用する。</p>	<p>三軒茶屋小学校 「思いや考えを豊かに伝え合う子の育成」～教育の情報化～ ○「伝え合い」の充実を図る。 ○教育の情報化の視点から、積極的にICTを活用する。(全教科) ○3分科会に分かれて全6回の授業研究(毎回講師を招聘)を実施する。 ○分科会毎に研修主題を定め、主題に迫る手立てを立てて検証する。</p>	<p>駒沢中学校 「生徒の学習意欲と学力向上のための指導のあり方」～授業におけるICTの効果的な活用の研究～ ○単元や授業の目標を達成するためにICTを活用する研究(全教科) ○ICTを活用して形成的評価を行い、指導にいかす研究 ※特別支援学級のICT活用(デジタル教科書など)</p>
---	---	---	---

## 駒の学び舎合同研修会 取り組みの方向性

- (1)基礎研究(先行研究等)の内容を共有する。  
・弦巻小学校の研究紀要(昨年度の発表)・学習定着率・京都市や兵庫県等の先行研究・合同学習習得確認会議での分析(発達段階、習熟度)など
- (2)授業研究(各学校の校内研究)の取り組みを進める。  
・コンテンツの共有に向けた検討を始める。(小小間、小中間、世田谷区教育要領の「繰り返し」や「発展」)  
・合同研修会でのICTを活用した授業公開と合同教科分科会を継続する。(1学期:駒沢中 2学期:弦巻小 3学期:駒沢小 次年度:三軒茶屋小)
- (3)調査研究(児童・生徒アンケート調査の内容や時期)の整合を図る。

研究推進組織 合同研究主任会:駒沢小(内藤信義) 弦巻小(小林香織) 三軒茶屋小(福岡 努) 駒沢中(鈴木貴子)  
ICTマイスター・ICT活用リーダー:駒沢小(内藤信義、面屋亮悟、大塚朗生) 弦巻小(秋田敏文、佐野和彦、藤田 健)  
三軒茶屋小(松本健太郎、松倉幸子) 駒沢中(山口守俊、西川慶介、新井健泰)